

『HCV（C型肝炎）経口2剤 投与前にHCV変異チェックを!?!』

肝臓川柳

『変異有無 経口前に 要検査』



.....ノノノノノ

9月3日に発売されたC型慢性肝炎、肝硬変に対する経口剤、

- ・ダクラタスビル（商品名ダクルインザ）
- ・アスナプレビル（商品名スンベブラ）

すでに全国の多数例で使用開始されています。

倍賞千恵子さん（フーテンの寅さんの妹（さくら）古い！）が出演してるコマーシャルも流れており、多くの患者さんが治療を希望されていますが、適応、効果、副作用に問題があり混乱気味です。

効果については、投与前のC型肝炎ウイルスに耐性があると全く違うと言われていました。

HCV 遺伝子 NS5 領域のアミノ酸配列のうち

[93番目のY]と[31番目のL]のアミノ酸が置換している変異が一番問題です

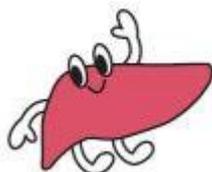
日本人は元々Y93変異が約14%の人に、L31変異が約4%の人にあるようで、

80~90%のHCV駆除率が、変異がある場合はそれぞれY93変異例で43%、L31変異例で25%に下がってしまいます。

また、変異のある例に投与して治らなかった場合は、

後出てくる新しい治療の効果に影響があると言われていました。

そこで、ガイドラインでも極力投与前に血液検査でHCV変異を調べることを推奨しています。3社の方法で測定可能ではあるものの、保険適応でないのが問題ですが、治療前の重要な情報です。



これだけ覚えておけば損はない!

今回のポイント

新しく発売されたC型慢性肝炎・肝硬変の経口薬ですが特定アミノ酸配列に変異があることでHCV駆除率が大きく変わってきます。

そこでガイドラインでも極力投与前に血液検査でHCV変異を調べることを推奨しています。

（文：福井県肝疾患診療連携拠点病院運営委員会 野ツ保 和夫）